



宮司プレス百二十一号

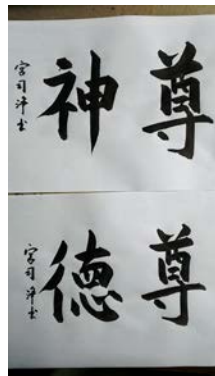
彦島八幡宮 宮司ニユース
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫
 発行 平成二十九年 二月 二日

◇宮司の柴田です。今年初めての宮司プレスの発行です。平成十八年六月から毎月一回の発行を心掛けた宮司プレス、本来であるならば、今月で百二十九号のはずでありますから、遅れの累積は、八ヶ月、過去最多となりました。

今日は、旧暦では、一月六日、かろうじて、旧暦ではありますが、「松の内」の発行の運びとなりました。発行の遅れの累積を披露（ひろう）しつつ、お待たせしました、遅ればせながらと記述（きじゆつ）するのが、悪しきルーティンとなっておりますが、第百二十一号の発行です。

◇毎年、その年の干支（えと）にちなんだ書初めをしています。平成二十六年の午年から今年で四年目です。「酉」を使った熟語、かなり苦慮（くりよ）しました。思い浮かぶのは、「酒」や「樽」、あるいは、「酩酊（めいてい）」、「酔狂（すいきよう）」といった酒にまつわるものばかりです。それもそのはずで、実は、先月号にも詳しく記載（きさい）しましたが、「酉」は、酒の壺（つぼ）、酒器（しゅき）のことでありますので、致し方ないところでもあ

ります。「尊（そん）」を使った熟語を考えました。



◇「尊神（そんしん）」と「尊徳（そんとく）」と浄書（じようしよ）しました。私は、平成二年から、今は亡き、三輪惠泉（みわ けいせん）先生に師事（しじ）しました。惠泉の「泉」を戴きまして、「宜泉（ぎせん）」と名乗（な）のつた弟子であります。とつても優しい先生でした。私の駄作（ださく）を先生に提出（ていし）すと、まずは、「立派（りっぺい）」です。よくできました。」とお褒（ほ）めの言葉を戴（た）きますが、返された半紙（はんし）は、添削（てんさく）の朱筆（しゅひつ）で、真っ赤（あか）になっていました。先生から、「立派（りっぺい）」と褒（ほ）められた一心（いっしん）で、稽古（けいこ）に励（こ）んだものです。この書初（しよそ）めも、「立派（りっぺい）」と褒（ほ）めてくださいながら、真っ赤（あか）に染（ぞ）まるのでしよう、お恥（は）ずかしい限りです。

◇「尊神」。尊という字は、位の高い方が、

お使いになる「酒器（しゅき）」のことで、転じて尊（とうと）ぶという意味合いになったそうです。「そんしん」と読みます。この言葉は、辞書に掲載（さい）されていて、神様（かみさま）を尊（た）ぶということ（こと）です。干支格言（えとかくげん）

では、「申西騒（まへにしやうざう）」と言われております。米国では、トランプ大統領が就任（しうじん）、これが、自由博愛（じゆうはくあい）、フロンティア精神（しんせい）の国「アメリカ」なのだろうかと、思（おも）わせるような連日（れんじつ）の大騒（おほさわ）ぎです。少なからず、私共（わがら）の生活（せいかつ）にも影響（えいきやう）があるかも知（し）れません。国際政治（こくさいせいざい）のリスクなどの分析（ぶんし）に特（とく）化したコンサルタント会社（かいしゃ）「ユーラシアグループ」を設立（せつり）したイアン・ブレイマ氏（しん）が、年初（ねんしよ）に発表（はつぷつ）している「今年の十大（じゅうだい）リスク」で、米国（べいこく）が最大のリスク（りすく）となると発表（はつぷつ）しました。◇私共（わがら）の御先祖（ごせんぞ）様（さま）は、いかなる時（とき）にも、神様（かみさま）は、お見通（みとお）しであるから、まっとうに生活（せいかつ）をしなければならぬ、そうすれば、必ず（かならず）お守（まも）りくださる、このことを信（しん）じたのです。これこそが、日本人（にっぽんじん）の伝統（でんとう）的な勇氣（ゆうき）、「神信心（かみしんじん）」なのです。まさに、「尊神（そんしん）」です。◇「尊徳」。これは、辞書（じしょ）には掲載（さい）されていません。私の「造語（ぞうご）」です。今年（ことし）は、酉年（うしとし）、動物（どうぶつ）では「鶏（とり）」です。鶏（とり）には、「五徳（ごとく）」がそなわっているそうです。これは、後漢（ごかん）の思想家（しゆぎあ）、韓嬰（かんえい）という方（かた）が仰（おほし）やいました。「とさか」、これは、「文（ぶん）」を意味（い）します。「蹴爪（せうつま）」

(けづめ)、「これは、「武」です。「文武両道」なのです。それから、敵にたいしては、「勇」の気を奮い戦います。餌(えさ)を見つけたら、仲間知らせる、思いやり「仁(じん)」です。そして、何より、「鶏鳴(けいめい)」にして、「時を守り夜を失わぬ」この物堅さは、「信」だと仰るのです。「文」「武」「勇」「仁」「信」の五徳なのです。中国春秋時代(ちゆうごくしゆんじゆうじだい)の呉の国の名君と謳(うた)われた闔閭(こうりよ)という王様は、国に一番大切なのは、武力や富ではなく、徳が一番大切だ、「徳を念(おも)いて怠らず それ敵すべけんや」と諭(さと)されました。伊勢神宮の神主さん、度会延佳(わたらい のぶよし)さんも、「人は神様から神性を戴いてうまれてきた、その本性を損なうようなことをしてはいけない」と戒(いまし)めていらつしゃいます。その本性とは、吉田松陰先生の仰る「身清浄心正直(みせいじようこころしようじき)」で、徳義を重んじる生活が大切です。損か得か、これは、浅(あさ)はかな「人間のものさし」、そうではなくて、嘘(うそ)か誠(まこと)か、真実か偽(いつわ)りか、正義か邪悪(じやあく)かという「神様のものさし」の生活こそが、「尊徳」ではないでしょうか。

◇当宮の旧参道の鳥居の柱に、「好古尚源(こうこしょうげん) 神斎心浄(しんさいしんじよう)

よう)」と刻まれています。「好古尚源 神斎心浄」、「古き良き伝統文化を学び尊びつつ、いつも神信心の生活を心掛ければ、心はいつも清らかかで明るい暮らしであるものだ」という意味に解釈します。「尊神」「尊徳」で、明るく豊かな暮らしでありますように。

◇一月の祭典行事報告

▼歳旦祭 *一月一日

□本宮 *午前八時半

□兼務社

◆田の首八幡宮 *午前〇時半

□末社

◆福浦金刀比羅宮 *午前一時

◆貴布禰神社 *午前六時半

▼元始祭 *一月三日

▼会社安全祈願祭参拝 *一月三日〜六日

▼六連島八幡宮初籠り *一月十一日

▼月次祭 *一月十五日

▼どんど焼き

◆本宮 *一月十七日

◆田の首八幡宮 *一月十六日

▼養殖わかめ火入式 *一月十九日

▼朝粥会 *一月二十一日

◇一月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◆早起会新年会 *一月十日

◆田の首八幡宮新年会 *一月十六日

◆維蘇志会新年会 *一月十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆下関支部三役会 *一月十九日

◆神社庁臨時役員会

◆山口県神社総代会役員会

◆神社庁顧問参与会 *一月二十日

◆下関支部新年総会 *一月二十五日

▼西ロータリークラブ

◇例会 *一月十三日、二十七日

▼講演活動

◇下関老人大学講話

*一月九日

◇下関RC卓話

*一月十三日

▼教誨活動、美祢社会復帰促進センタ

◇集合教誨(女子)

*一月十八日

◇集合教誨(男子)

*一月二十五日

▼倫理法人会

◆下関市倫理法人会

◇早朝清掃奉仕、参拝 *一月六日

◆下関市中央倫理法人会

◇参拝 *一月五日

◇経営者モーニングセミナー

*一月二十一日

※当宮朝粥会に参加